

令和2年1月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年1月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、市では、昨年12月に令和元年の10大ニュースを発表しました。

### 《令和元年 八戸市10大ニュース》

1. 「YSアリーナ八戸」完成記念式典及び竣工記念音楽フェス「WORLD HAPPINESS」開催（8月）
2. 5月1日 八戸市市制施行90周年に（5月）
3. 小学生女子児童切りつけ事件発生（11月）
4. 長根リンク 半世紀の歴史に幕 ～思い出 七色の銀盤に～（2月）
5. みちのく潮風トレイル全線開通（6月）
6. 新井田川と小舟渡漁港内に“マグロ”!?（9月）
7. 市民のさかなは「イカ」 市制施行90周年記念事業の市民投票で決定（2月）
8. 八戸圏域版DMO「VISIT（ビジット）はちのへ」発足（4月）
9. 八戸西スマートインターチェンジ供用開始（3月）
10. 「中合」が「やまき」へ三春屋店舗を売却（9月）

令和元年は、八戸市が市制施行90周年を迎えた年でした。また、長根リンクが半世紀の歴史に幕を下ろし、新たに長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」がオープンした、氷都八戸の新たなスタートの年でした。

今年も産業や観光、文化・スポーツなど様々な側面で、昨年以上に明るいニュースがありますことを願っております。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

# 八戸 1月号 レポート

令和元年12月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	「フラット八戸」で全国都市問題会議開催へ
(2)	「蕪島ウミネコ繁殖地」新たな保存活用計画を策定へ
(3)	八戸都市圏交流プラザ 愛称「8base (エイトベース)」に
(4)	八戸市とNTT東日本が共同実験 イチゴ生産現場にIoT

## 【産業】

記事	概要
(5)	川崎近海汽船 八戸-苫小牧航路に新造船を投入
(6)	「南部のキャンディーズ」りんごジュースを開発
(7)	八戸-室蘭のフェリー航路 13年ぶりに復活
(8)	「世界酒蔵ランキング2019」で八戸酒造が3位
(9)	「hati style」が南部せんべいの新スイーツを限定販売

## 【地域】

記事	概要
(10)	蕪島周辺に天然記念物の「コクガン」飛来
(11)	八戸水産高生が本年度初のサバ缶作り A-HACCP取得を目指す
(12)	蕪嶋神社 新社殿ほぼ完成

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(13)	八戸出身の2作家 芥川賞・直木賞に初のノミネート
(14)	東京オリンピック聖火リレー 八戸は蕪嶋神社～館鼻漁港
(15)	芥川賞作家三浦哲郎さんの手紙 市立図書館に寄贈
(16)	山車小屋にプロジェクションマッピング ～冬も彩る八戸三社大祭～
(17)	3人制バスケ U18日本選手権 八学光星高女子が準優勝
(18)	天摩由貴選手 (八戸市出身) 東京パラリンピック・ゴールボール代表に内定
(19)	東京パラリンピック・シッティングバレー審判員に白銀南中教諭の山道さんが内定
(20)	「第8回はちのへ演劇祭」開催 オリジナリティー輝く6劇団出演

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>「フラット八戸」で全国都市問題会議開催へ</b></p> <p>全国の市長や議員、自治体関係者らが一堂に会し、まちづくりなどに関して討議する第82回全国都市問題会議（全国市長会などが主催）が2020年10月8、9日に、八戸駅西地区に2020年の春に完成予定の「フラット八戸」で開かれる。テーマは未定だが、当日は基調講演やパネルディスカッションなどが行われる予定。参加者による市内の視察なども行われる。全国から1500～2千人が訪れる見通しで、飲食や宿泊、物産を中心に、一定の経済効果が見込まれている。</p>
(2)	<p><b>「蕪島ウミネコ繁殖地」 新たな保存活用計画を策定へ</b></p> <p>国の天然記念物に指定されている「蕪島ウミネコ繁殖地」について、八戸市教委は12月10日、改正文化財保護法に基づく保存活用計画を策定する考えを明らかにした。近年は蕪島に訪れる観光客が増加し、ウミネコを捕まえたり、追い掛けて写真を撮影したりするといった事案が報告されている。このため、市は蕪島の保全とウミネコに関する保護方針や基準を定め、活用についても明確化する計画を策定する。新年度にも具体的な検討に入る。</p>
(3)	<p><b>八戸都市圏交流プラザ 愛称「8base（エイトベース）」に</b></p> <p>八戸圏域連携中枢都市圏を形成する8市町村の首都圏でのPR拠点として整備を進める「八戸都市圏交流プラザ」について、八戸市は愛称を「8base（エイトベース）」にすると発表した。場所は東京都千代田区のJR有楽町駅から新橋駅間の高架下で、飲食や物販機能の他、イベントの開催など交流機能を持たせる。運営は八戸市内や都内で飲食店を経営する金剛が担う。令和2年5月末までに内装工事などを実施、6月末のオープンを予定している。</p>
(4)	<p><b>八戸市とNTT東日本が共同実験 イチゴ生産現場にIoT</b></p> <p>八戸市とNTT東日本は、IoT（モノのインターネット）を活用したイチゴの生産に関する共同実証実験を始めた。実験は、市農業経営振興センターにある640株のイチゴを栽培するハウスに、IoTセンサー装置とIoTカメラを設置し、3月末まで展開する。センサーでハウス内の温度や湿度、土壌の水分量などを測定し、カメラで暖房機の稼働状況を遠隔監視。これにより、生産環境が常にスマートフォンで見られるようになるほか、異常検知時のアラート通知機能で、見回り業務の省力化も図られる。県内のイチゴの一大産地である八戸で、生産者が減少傾向にある中、実験の成果を生産性の向上や生産者の労働環境の改善につなげることを目指す。</p>

## 【産業】

記事	概要
(5)	<p><b>川崎近海汽船 八戸ー苫小牧航路に新造船を投入</b></p> <p>川崎近海汽船は、2021年6月に八戸ー苫小牧航路に新造船を投入することを明らかにした。2018年4月に就航した「シルバーティアラ」と同等の大きさを想定しており、特等室なども用意し、客室のバリエーションを増やす考えである。現在、同航路で就航している「ベにりあ」の後継として投入する計画で、客室数が大幅に増加する他、車両積載能力も1割程度向上する見通しである。</p>

(6)	<p><b>「南部のキャンディーズ」りんごジュースを開発</b></p> <p>地場の果物を活用し、地域活性化に取り組む3人組「フルーツ&amp;クッキングあらっ！フォーアイドル！？」南部のCANDY's（キャンディーズ）」は、メンバーの果樹園で生産したりんごを使ったオリジナルのりんごジュースを開発した。八戸市出身の果樹園経営者や料理研究家53人が平成30年に結成。果樹園のりんごでつくったドライアップルが「キャンディーみたいに甘かった」ことをきっかけに「キャンディーズ」の名称を使った。りんごジュースは皮ごと搾った100%ストレートで、旬のりんご本来の味を楽しむのが特徴。品種ごとに、あかね、つがる、きおう、ジョナゴールド、ミックス（ふじ、王林、シナゴールド）の5種類展開で、価格は1本1リットル入りで850円（税込み）。</p>
(7)	<p><b>八戸-室蘭のフェリー航路 13年ぶりに復活</b></p> <p>川崎近海汽船は、室蘭市と八戸市、宮古市を結ぶ宮古-室蘭のフェリー航路について、宮古発着便の運航を2020年3月末から当面休止し、八戸-室蘭の往復便に改編する計画を発表した。収益の柱と位置付けていたトラックの乗船台数が、当初見込みを大幅に下回っているのが要因。八戸室蘭航路が13年ぶりに復活する形となり、八戸と北海道を結ぶ航路は、苫小牧航路も含めて1日5便に増便する予定。</p>
(8)	<p><b>「世界酒蔵ランキング2019」で八戸酒造が3位</b></p> <p>国内外の有力な日本酒コンテストでの入賞実績をポイント化した「世界酒蔵ランキング2019」で、ランキング対象の654蔵のうち、八戸酒造が東北地方最高の3位に輝いた。ランキングの対象となったのは、フランスのKura Master（クラマスター）や、英国のインターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）をはじめとした6つのコンテスト。八戸酒造は陸奥男山クラシックや陸奥八仙特別純米など16銘柄が各コンテストで受賞し、890ポイントを獲得した。</p>
(9)	<p><b>「hati style」が南部せんべいの新スイーツを限定販売</b></p> <p>八戸市でイベント企画を手掛ける「hati style（ハチスタイル）」は、南部せんべいを使ったスイーツ「Chopetto（チョペット）」を開発し、12月28日～1月5日までの期間限定で、「はっち」とユートリーで販売した。南部せんべいにベルギー産チョコレートやドライフルーツ、ナッツなどを載せた5種類を展開。同市の洋菓子店「MANODO（マノド）」と共同で企画、販売し、カラフルな見た目にもこだわった。</p>

【地域】

記事	概要
(10)	<p><b>蕪島周辺に天然記念物の「コクガン」飛来</b></p> <p>国の天然記念物に指定されているコクガンが、蕪島や八戸市水産科学館マリエント周辺に飛来している。12月7日には20羽ほどの群れが岩場で羽を休めたり、海藻をついばんだりする姿が見られた。コクガンの体はおおむね黒いが、側面と下腹部が白く、首回りにも白い帯状のラインがあるのが特徴。例年、11月ごろに越冬のためシベリアから飛来し、春になると戻る。日本野鳥の会の関係者は「蕪島周辺はバランスよく磯や水場があり、全国的にも希少な越冬地。コクガンは警戒心が強いので、観賞する際は遠くから眺めてほしい」と話している。</p>

(11)	<p><b>八戸水産高生が本年度初のサバ缶作り A-HACCP取得を目指す</b></p> <p>県独自の食品衛生管理認証制度「A-HACCP（エー・ハサップ）」取得を目指している青森県立八戸水産高水産食品科の2年生が、12月11日に本年度最初のサバの缶詰作りに励んだ。A-HACCPは県産食品の製造・加工業者を対象に、厳格な衛生管理に取り組んでいることを認証する制度。認証に向けた動きは県立高校でさきがけになるという。製品は2千個程度を目指しており、同校文化祭「水産デー」で販売される予定。</p>
(12)	<p><b>蕪嶋神社 新社殿ほぼ完成</b></p> <p>2015年11月の火災で社殿を焼失した蕪嶋神社について、神社再建実行委員会は12月19日に、新たな社殿がほぼ完成したと明らかにした。新社殿は当初、年内に竣工予定だったが、蕪島の頂上へ続く階段も造り直したため、予定より2カ月ほどずれ込み2月末に竣工の見込みとなった。3月26日の一般公開に先立ち、12月19日に新社殿の内部を報道機関に公開した。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(13)	<p><b>八戸出身の2作家 芥川賞・直木賞に初のノミネート</b></p> <p>第162回芥川賞、直木賞の候補作が12月16日付で発表され、芥川賞に八戸市出身の木村友祐さんの「幼な子の聖戦」など5作品、直木賞には同市出身の呉勝浩さんの「スワン」など5作品がノミネートされた。木村さんは2009年に「海猫ツリーハウス」で第33回すばる文学賞を受賞してデビュー、「イサの氾濫」で三島由紀夫賞候補、同作と「聖地Cs」は野間文芸新人賞候補となった。呉さんは2015年に第61回江戸川乱歩賞を受賞した「道徳の時間」でデビュー、2018年には「白い衝動」で第20回大藪春彦賞を受賞した。選考会は1月15日、築地の料亭「新喜楽」で開かれる。</p>
(14)	<p><b>東京オリンピック聖火リレー 八戸は蕪嶋神社～館鼻漁港</b></p> <p>東京2020オリンピック聖火リレー青森県実行委員会は、6月11、12日に県内で行われるリレーの詳細ルートを発表した。県南地方の6市町7区間を回る最終日は、むつ市の市イベント広場からスタートし、十和田市現代美術館、階上町のはしかみハマの駅あるでい～ばなどを経由。最後の走路となる八戸市では蕪嶋神社を出発し、鮫、築港街を経て館鼻漁港に至る3.4キロが祭典を盛り上げる舞台となる。ゴール地点の館鼻漁港では、聖火到着を祝う「セレブレーション」を行う。</p>
(15)	<p><b>芥川賞作家三浦哲郎さんの手紙 市立図書館に寄贈</b></p> <p>八戸市出身の芥川賞作家三浦哲郎さんが、旧制八戸中（青森県立八戸高）の同級生だった故船越康昌さんに送った手紙やはがきなど計78点が、船越さんの遺族から市立図書館へ寄贈された。1949～1958年の物で、三浦さんが「忍ぶ川」で芥川賞を受賞する3年前までの、文学に傾倒し、文筆生活を目指していく時期に当たる。船越さんは太宰治の短編集「晩年」を貸して読ませるなど、三浦さんが文学に関心を持つきっかけをつけた人物で、寄贈資料からは、文学にのめり込んでいく若き三浦さんの情熱が伝わる。同館は三浦さんの遺族の意向を聞いた上で公開する方針。</p>

(16)	<p><b>山車小屋にプロジェクションマッピング ～冬も彩る八戸三社大祭～</b></p> <p>八戸の夏を彩る八戸三社大祭の山車小屋に、プロジェクションマッピングで写真やアニメーションを投影するプロジェクトが進行している。八戸市出身の泉山仁志さんが代表を務め、アートによる地域振興を図る「variable」（東京）が企画を立ち上げた。プロジェクションマッピングは、三社大祭の歴史や伝統を感じ取れる映像を目指し、市民ボランティアが制作したアニメーションも盛り込む。淀山車組が今回の企画を快諾し、沼館4丁目の山車小屋で1月18日に実施する予定。</p>
(17)	<p><b>3人制バスケ U18日本選手権 八学光星高女子が準優勝</b></p> <p>11月30日、12月1日に東京都内で行われた3人制バスケットボールの大会・第6回3x3U18日本選手権に出場した八戸学院光星高女子バスケットボール部の4選手によるチーム「Iverson」が、準優勝に輝いた。3人制バスケットボールは、10分間の試合時間内で得点が多いチーム、もしくは先に21点を奪ったチームが勝利となる。大会には、各エリア予選を勝ち抜いた16チームが参加し、トーナメント戦で上位を競った。準々決勝、準決勝共に勝ちを急がず、10分間を戦い抜き、相手をロースコアに抑えたことが勝利につながった。</p>
(18)	<p><b>天摩由貴選手（八戸市出身）東京パラリンピック・ゴールボール代表に内定</b></p> <p>日本ゴールボール協会は、東京2020パラリンピックに出場する第1次推薦内定選手を発表し、女子3人の1人に八戸市出身の天摩由貴さんが選出された。天摩選手は2012年ロンドンパラ大会陸上の女子100メートル、200メートルに出場。2016年リオ大会にはゴールボール女子日本代表として出場した。アジアパシフィック選手権（12/5～10日・千葉市）では主将として大会3連覇に貢献。中国との決勝では天摩選手も得点を奪い、2-1で勝利した。2020年の東京五輪、パラリンピックに向けた青森県出身者の内定は初めてとなった。</p>
(19)	<p><b>東京パラリンピック・シッティングバレー審判員に白銀南中教諭の山道さんが内定</b></p> <p>座ったままプレーする「シッティングバレーボール（SV）」の国内唯一の国際審判員で、八戸市立白銀南中の英語教諭、山道律人さんが、東京パラリンピックの審判員に内定した。山道さんが本格的にSV審判員の道を歩み始めたのは2014年ごろ。SV関係者から、五輪に向けて「英語を話せる審判員」が必要だーと山道さんに白羽の矢が立ち、関心を持ったという。生徒たちには、大会や試合を支えるために行動する人の存在についても考えてほしいーとの思いがあり、「裏方に光を当ててくれたことに感謝したい」と話す。昨年3月には、教員との二足のわらじを履きながら実績を重ねたことが評価され、スポーツ庁から「スポーツ審判員奨励状」も受けた。</p>
(20)	<p><b>「第8回はちのへ演劇祭」開催 オリジナリティー輝く6劇団出演</b></p> <p>青森県南地方の演劇人を中心とする「第8回はちのへ演劇祭」が、12月27～29日に「はっち」で開かれた。演劇祭は、八戸近郊で芝居の上演が盛んだった1980～90年代の活気を取り戻し、演劇の力で地元を元気にしようと、2012年に始まったもの。八戸学院大演劇部は「ザシキワラシさん」を披露し、自然災害が増えた現代の日本で人々を幸せにする力を失った座敷わらしたちの葛藤を、情感豊かに演じた。3日間で八戸市と青森市の6劇団が、オリジナリティー輝く短編を披露した。</p>